

学校だより

豊かっ子



喜多方市立豊川小学校
令和3年11月26日(金)
発行者 校長 遠藤 信恵
第15号

【教育目標】 健康で自らを育てる 心豊かな児童の育成

◎ (心も体も) つよい子 ◎ (自然と友達に) やさしい子 ◎ (真剣に) まなぶ子

待ちに待った修学旅行！楽しい思い出ができました



11日(木)、12日(金)の1泊2日で、仙台・松島方面への修学旅行を無事に実施することができました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、6月の予定が10月に延期となり、さらに11月に再延期となったため、子ども達は修学旅行ができるのか、1学期からずっと心配していたようです。どこの見学地も小学生や中学生の団体旅行者で混み合っていましたがお天気に恵まれ、あでやかな紅葉もめでることができ、楽しく心に残る修学旅行になりました。

帰校後の解散式では、代表児童がお礼の言葉として、大変な状況が長く続く中で一緒に心配し、修学旅行に笑顔で送り出してくださった家族への感謝の気持ちを発表しました。子ども達の心の成長とともに、コロナ禍の中だからこそ学ぶことができたこともたくさんあったことを改めて感じました。修学旅行を実施するにあたって、保護者の皆様にもご心配をおかけしましたが、温かいご理解とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

大きな行事を終え、いよいよ卒業を意識する時期となりました。最上級生としての自覚を高め、学校や下級生のためになる活動にも積極的に取り組ませていきたいと思えます。

【1日目】〈ベニーランド〉

〈仙台市科学館〉

〈五大堂・瑞巖寺〉

〈ホテルの夕食〉



【2日目】〈ホテルの朝食〉

〈松島・遊覧船〉

〈仙台うみの杜水族館〉

〈八木山動物園〉



専門高校生による小中学生体験学習応援事業



15日(月)、6年生が喜多方桐桜高校での体験学習を行いました。機械科では、ロボットの操作体験、電気・電子科では、テーブルタップの製作、建設科では、測量機器を使った測定体験、経営マネジメント科では、パソコンでのネームシール制作等を、高校生にマンツーマンで指導してもらいました。近くにある高校ながら、初めて校内に入った子ども達がほとんどで、専門的な学習内容はもちろんのこと、沢山の機械や充実した施設・設備に驚いていました。桐桜高校の教頭先生からは「小学校のすべての学習が、高校での学びの土台になる大切なもの。授業を頑張ってもらいたい。」というお話がありました。今、学校で学んでいることと将来とのつながりを考えるきっかけとなる貴重な体験ができました。



【測量機器で高低差の測定】

集中豪雨から命を守るプロジェクト事業 ～防災出前講座～



【土石災害を模型で学ぶ】

福島県の「集中豪雨から命を守るプロジェクト事業」を活用して、10日（水）、4・5年生で防災学習を実施しました。目的は、集中豪雨による洪水や土砂災害等の自然災害から自分の命を守るための知識を身に付け、子ども達の防災意識を高めるためです。

喜多方建設事務所の職員4名と県砂防ボランティア協会職員4名を講師に、記憶に新しい熱海市の土石流の映像などを交えて、洪水や土砂災害の怖さを学びました。また、模型を使って、実際に土石災害や河川災害が発生した場合の被害状況や避難の仕方、建設事務所が行っている防災の工夫等についても教えていただきました。これからも様々な防災教育を工夫し、「自分の命は自分で守る」ための知識や行動力を身に付けさせていきたいと思ひます。

学力向上をめざす校内研修の取組 ～第6回授業研究会～

17日（水）、1年生で算数科の研究授業を行いました。今回の課題は、「13-9の計算の仕方を考えよう。」です。大人なら、頭の中でささっと答えを出してしまいがちですが、1年生はどんな風に考えるのかと見回すと子ども達は困った表情。しかし、今まで習ったことを使うことが分かると、ブロックやサクランボ算、式を使うなどの見通しをもって自力解決を始めました。ペアでの話し合いでは、ブロックを操作したりノートを見せたりしながら筋道立てて説明することができ、学び合う姿勢ができていくことに感心しました。また、



【ペアで説明し合う】

話を聞く、ノートをとる、復唱するなど、一つ一つの活動が身に付いていて、1年生の成長を実感することができました。ブロック操作をしながら説明する児童の動画をその場で撮影し、スクリーンに写し出して解き方を確認し合うなど、タブレットも有効に活用された授業でした。



みんなを笑顔にする算数「思いやり算」



19日（金）の全校集会で、みんなを笑顔にする算数「思いやり算」の話をしました。「思いやり算」には、たし算、ひき算、かけ算、わり算の4つがあります。

思いやり算
 + たすけあう
 - ひきうける
 × 声をかける
 ÷ いたわる

たし算は「助け合う」ということです。家族はもちろん、友達や困っている人がいたら助けてあげることで、大きな力が生まれます。

ひき算は「引き受ける」ということです。家族や先生、友達に頼まれた時に勇気を出して引き受けることで、相手も自分も嬉しくなります。

かけ算は「声をかける」ということです。挨拶を含め、元気のない人や困っている人に声をかけることで、お互いの心が一つになります。

わり算は「いたわる」ということです。自分より立場の弱い人に親切にする、優しくする、気を配ることで、相手の心が和み、笑顔が返ってきます。

子ども達には、「思いやり算」も勉強と同じで、繰り返すことで身に付いていくことや、自分の心や思いは他の人には見えないのだから、「温かい心」や「やさしい思い」を「行い」にできる人になろうという話をしました。子ども達は、大人のちょっとした姿から人を思いやる言葉や行動を学びます。私たち大人が手本となって、この「思いやり算」のように相手の立場に立ち、考えて行動できる子どもを育てていきたいと思ひます。



受賞おめでとう！

◇ 税に関する習字

喜多方地区租税教育推進協議会長賞（最優秀賞）

6年 須田 結奈さん

喜多方地区税務関係団体連絡協議会長賞（特別賞）

6年 十二村南斗さん



◇ 小学生の納税標語コンクール1・2年生の部（詩・囃）

佳作 2年 松川 優菜さん